

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和5年1月(2023年) No. 685

新しい年を迎えて・ご挨拶

OMC がしっかりしないと関西映像界が . . .

会長 合原一夫

コロナ禍はまだ癒ってはいませんが、わがアマチュア映像の世界では、ほぼコロナ前に戻った感があります。OMC 例会の過去5年間の統計(別紙参照)の通り、例会の出席者数、作品数も、コロナ期の過去2年間は成績は悪かったが、令和4年の実績はコロナ前の令和元年の成績に戻っております。唯、会員数が減ってきているのは憂慮すべきことです。4年前に比べ5人減っています。会員の高齢化が進み、実質的に作品を作らなくなった人、健康上の理由からです。会員の減少をいかに止めるか、新しい人をどう勧誘するかが、今後の課題です。然し、現在の処、我がOMCはしっかりと活動しているクラブです。

関西に目を向けますと、どこもひと頃の勢いがありません。毎年発表会を開いていたクラブも、今や我がOMCを除いてほとんど取りやめてしまいました。会員が減り、作品が集まらなくなったためと思われます。

大阪アマチュア映像連盟も第8回(平成16年)の11クラブで構成したものが、この18年間の間に現在4クラブに迄減少してきました。この間常に大阪ムービーサークル(OMC)を中心にして映像祭を取り仕切ってまいりました。現在ではOMCが中心になって頑張らないと関西アマチュア映像界はしぼんでしまう危険性があります。

こういう意味からも、他のクラブが立ちいかななくなったら手を差し伸べ場合によっては合併するなり、会員を引き受けるなり助けることも視野に入れておく必要があるように思います。

とにかく、関西映像界の主体となっているOMCが今後も健全に運営できていく事がポイントです。今年も会員諸氏のご協力ご支援のほどよろしく願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

1月例会のご案内

第二例会：19日第3木曜日 13時～総会、表彰式及び例会

通常例会；28日第4土曜日 18時～

新年会；今年も会としてはやりませんが、第二例会後希望者のみで開催
第二例会の日、早めに中川世話役迄申し込んでください。

昨年一年間の例会記録を調べました。

■ **最多出席者**：ご苦労様でした。

・ **18 回皆出席者**（敬称略）

江村、紙本、合原、高瀬、山本、宮崎、森下の各氏

・ **17 回出席者**：岡本氏

■ **最多出品者**；よくぞ多く出品頂きました。

・ **年間 20 本出品者**；江村、山本の 2 氏

・ **年間 19 本出品者**；高瀬、合原の 2 氏

以上の方に総会の席上で記念品を贈呈いたします。

<会長コメント>

例会（通常例会は月 1 回、第 2 例会は奇数月開催）を円滑に運営していくためにはまず、会員さんが毎回きちんと集まることが盛会の第一歩です。例会当日は、何かと用事があったりして休みたくなるものですが、例会を最優先にして出席して頂いたことにまず感謝です。

次に趣味の映像を楽しむための会ですから、上映できる作品が無いと例会が成り立ちません。そこで毎回 9 本から 10 本くらいの作品が持ち寄られ、時間一杯の例会を楽しむことが出来ているのはうれしい事です。最も新作ばかりではなく、旧作を掘り起こし、手直ししたりして出品される方も多いが、何はともあれ元気で映像を楽しんでおられる姿は素晴らしい健康の証でもあります。

課題としては全国コンに入賞するようなレベルの高い作品が一人 1 本ずつでも出し映像発表会に望めたらなあと思うのですが、ここは各自の一層のご努力に期待するところです。

過去 5 年間の例会記録

■ 通常例会の記録

年度	会員数 人	出席者 人/回	出品数 本/回	総本数 本/年
H30	34	17.3	10.1	121
R 1	29	14.6	9.7	116
R 2	27	13.1	10.2	92
R 3	23	11.3	8.4	84
R4	24	12.8	9.2	110

■ 第 2 例会の記録

H30	34	16.8	11.2	67
R 1	29	14.0	10.7	64
R 2	27	12.4	10.6	53
R 3	23	12.4	10.8	54
R4	24	12.3	10.8	65

注 1) 出品数、総本数には、課題コンテスト作品、撮影会コンテスト作品も含むが、令和 2～3 年どの撮影コンは中止

■ 通常例会+第 2 例会

年度	年間合計出席者	年間合計出品数
H30	208+101=309 名	121+ 67=188 本
R 1	176+ 84=260 名	116+ 64=180 本
R 2	118+ 62=180 名	81+ 53=134 本
R 3	102+ 62=164 名	84+ 54=138 本
R4	154+74=228 名	110+65=175 本

注 2) コロナ禍の為、令和 2 年度は通常例会 3 回、第 2 例会 1 回の休会があった。

また令和 3 年度は通常例会 2 回、第 2 例会 1 回の休会があった。

令和 4 年度は、コロナ禍は完全に治まってはいないが、通常例会、第 2 例会ともに平常に戻っている。

この 5 年間の記録から見えてきた事

平成の最終年からこの令和 4 年度の、この 5 年間の記録を見ていると、令和 2～3 年度のコロナの影響が大きかったことが判ります。例会も会場封鎖で中止に追い込まれ、また撮影会もできなかったことで、この影響がもろに数字に表れています。

そこでコロナ禍前の平成 30 年度と令和 4 年度の、この 5 年間の事を考えますと、会員数が 10 名も減っ

ています。率にして凡そ3割少なくなったこととなります。

高齢化で映像作りをやめた方、健康上の理由などの要因はありますが、新規に入会してくる方が少ないことが減少した要因の一つです。コロナ禍の時代一層減り続けましたが、令和4年度に新しく2名の新入会者があり、前年度より1名増えたことは喜ばしい事でした。映像は制作していないが、大勢の方に混ざって観るだけでも楽しいという方もどしどし入会して頂いて回を賑やかに活性化させるのも現実的かもしれません。

■ 例会の出席率向上に全員参加型の運営で

出席率向上に全員参加型のお世話係にしたことは良かったと思っています。作品を制作していない方も受付係の役割をして頂くとか、上映係、会計適任者が居れば司会の役割も年2回ほど担当して頂くなど、会員諸氏が何か少しでも世話する方に回ってもらい、例会への関心を高めて出席率を上げていく、という今のやり方は、今後も続けて行きます。少なくなった会員数で出席者を少しでも増やしていくことが例会を活性化する方法だと思っています。

令和5年度 今年の行事予定

コロナ禍は第8波だとかでまだニュースになっており、外に出ればマスク姿の人ばかりですが、2年前の様な緊張感は薄まったように思います。

「日本を縦断する映像発表会」会場になっている大阪市立中央図書館の大会議室が、今年からは階段状座席にもどして入場者定員を100名に増やすという事です。コロナ過が始まってからは、移動式の階段状座席を奥の収納庫に引込めて平床とし、折りたたみ椅子を定員の半分以上に抑えた数だけを並べてありました。今年からは階段状に戻して入場者数も増やすという事です。

■ 撮影会は中川・江村コンビで企画中

第一候補として4月第2土・日、和歌山県かつらぎ町の花盛祭を予定しているが、祭りはコロナで未定との事

■ 懐かしの映像を楽しむ会

コロナ過で休会中ですが、公開映写会の予定会場選定の可否の事も含めて、5月頃に東大阪リージョンセンター多目的ホールでやってみようか、という案が浮上中。

■ 秋の公開映写会

大阪市立中央会館で毎年実施しているが駅にはエレベーターが無く、地下2階の地下鉄の駅から地上への階段を上るのがきついという観客の声があるので、どこか別の場所は無いか、という課題があります。いずれにしても10月前半には実施します。

■ ZOOM ミィーティング継続

毎月第一土曜日（Am10時から）に開催していますが、例会に参加出来ない遠隔地の会員さん等に好評なので今年も継続して実施いたします。

12月例会レポート

12月24日（土）13時より幹事会、15時より世話役会の後18時より今年最後の12月例会を開催、街はクリスマス・イブで若者たちでにぎわっているが、OMC 例会場はそれらとは無縁？の会員15名の参加で活気があった。今年初めて西村亀雄氏が参加された。

■ **運営担当**：司会 岡本、書記 高瀬、YouTube 関係 中川、映写 坪井、メモリー記録 中川、受付・照明 森下、宮崎の各氏

■ **出席者**：岩井、江村、大久保、岡本、上総、紙本、合原、高瀬、坪井、鉄具、中川、西村亀雄、宮崎、森下、山本の15氏、関氏（作品のみ）

上映作品（今月の書記は高瀬氏）

1. 3カメの面白さ BD
鉄具嘉夫 9分58秒

（作者コメント）

指揮者の横顔を撮りたくてステージの横からカメラを置かしてもらって撮ってみました。

（書記コメント）

2つの演奏会の模様をステージの正面に2台、横に1台と3台のカメラを駆使して撮影されている。1カメをメインに、2カメは正面にワイド画面で固定、3カメは横からと、それぞれの特徴を生かした撮影で、特に3カメの映像は通常あまり見ないアングルで、効果を発揮されている。ただタイトル「3カメの面白さ」が「3台のカメラ撮影の面白さ」なのか「3カメのアングルの面白さ」なのか分かりにくい（後者と思われるが…）ですが、アップやパンニングなど、フリーでいろいろ活かせる1カメのシーンが3カメと対比する上でも、少ないのが惜しまれます。



2. 亀の瀬 BD
江村一郎 8分30秒

（作者コメント）

「亀の瀬」、大阪と奈良の国境に位置し、4万年前から地すべりを繰り返してきた難所でありながら、古代から交通の要衝でもあった。大阪と奈良を結ぶ鉄道が明治25年に開通したが、昭和6年に大規模な地すべりに見舞われて、700メートルのトンネルは崩壊し、鉄道は二つの鉄橋と新たなトンネルで南側に移動した。昭和37年から始まった地すべり対策工事のなかで、平成20年に明治のトンネルの一部が発見され、最近一般に公開されることになった。



（書記コメント）

亀の瀬の地すべりの歴史や新たに発見されたトンネルなど、廃線跡を詳しく映像化され、上手くまとめられている。一般に廃線跡というと、以前通っていた鉄道が廃止され、道路やバス路になっているケースが多いが、亀の瀬の廃線跡は並行して新しい鉄道が敷かれているというのは珍しいのではないのでしょうか。

3. 別宮と糸井の大桂 BD
紙本 勝 12分20秒

（作者コメント）

巨木紀行20作品の最後となりました。紹介の写真は見ていたのですが、両者とも実際に撮影してみると、その大きさと生きてきた歴史の尊さに感動しました。これからも貴重な巨木として歴史を刻んでほしいものです。



（書記コメント）

巨木紀行最後の作品にふさわしい樹齢2000年の見事な巨木に出会われた。熊出没の危険な山道を往復10キロも歩かれての撮影には驚きとともに感服。そして大桂の老木にみずみずしい青葉が繁っている、まさに生命の美を象徴するような映像に感動させられる。これからもこうした紙本さんならではの作品を見せていただきたい。

4. 人形劇「ゴミラなんかこわくない」 BD

上総秀隆

21分27秒

(作者コメント)

人形劇団シャボン玉。ボランティアで幼稚園などをまわっている。今回は来春、廃園する公立幼稚園で最後の公演となった。

(書記コメント)

幼稚園児が観客の人形劇を開演から終わりまでを収録されている。2台のカメラを使って、人形のアップなども取り入れ、人形劇の記録映像としてまとめられている。しかし廃園予定の幼稚園最後の公演という話などを組み込めば、また違った趣のある「作品」となるのではないのでしょうか。



5. 御室八十八カ所霊場巡り

BD

高瀬辰雄

16分10秒

(作者コメント)

御室仁和寺の裏山に八十八の御堂が建っており、これを巡ると四国八十八カ所霊場巡りをしたのと同じ御利益があるといわれている。晩秋の一日、およそ30年ぶりに御山巡りに挑戦してみました。撮影しながら回ると3時間を超えました。



6. 短歌紀行 奈良晩秋

BD

岡本至弘

4分30秒

(作者コメント)

趣味の短歌をつくるために、晩秋の奈良を訪れて、動画撮影をしてきました。初日は、鹿寄せのシーンは、終わっていたので、改めて別の日に行ってきました。あまり、絵面がなくて物足りない作品になりました。短歌とのコラボ映像です。



(書記コメント)

色鮮やかな紅葉や鹿寄せ、浮御堂など晩秋の奈良の映像に、作者自身が詠まれた短歌を添えられた短編。会長から短歌の詠み人、ご自身の名前を入れられた方がよい、ラストは短歌のフェードアウトと重なってすぐに「終」の文字が出るので、ここはもう少し間をあげ、余韻を持たせた方がよいといった指摘がありました。

7. VIA鉄道

BD

関 剛

13分

(作者コメント)

カナダシリーズ第3作目。この旅行のメインのひとつでカナダ最大の都市トロントからカナディアンロッキーの玄関ロジャスパーまで3600kmを2泊3日かけて走る「列車番号1、ザ・カナディアン号」の乗車体験記。列車の屋根に突き出たドームから見る変化に満ちた沿線の風景が素晴らしく、長距離・長時間にもかかわらず退屈しなかった。2006年10月制作。



(書記コメント)

カナダの国営鉄道VIA鉄道のザ・カナディアン号に乗られての体験記。普通の車窓だけでなく、列車の屋根に突き出たドームから見る映像は新鮮で、乗車時間、距離が長かったものの退屈しなかったといわれているように、その映像を見るのも飽きることなく、カナダの雄大な風景を堪能させてもらった。

8. 「絵馬に魅せられて…」

DVD

合原一夫

13分26秒

(作者コメント) 3

夜、寝つかれないまま、目が覚めて、本でも読もうかと取り出して読み始めたのが「絵馬」の本。読み出したら妙に関心が湧き、遂に本に紹介された大和高田市に住む絵馬師をたずね、描いているところを見せてもらった。これは1985年(S61)5月のOMC撮影会で、8ミリフィルムで撮った懐かしの作品である。



(書記コメント)

撮影会ではおそらく絵馬師のお宅を訪れ、絵馬を製作されているところを中心に行われたものと推測。それに加え、寝つかれない夜に読んでいた絵馬の本に興味をそそられ、絵馬師の家に行くという話を独自に加えられ、奥深さのある作品に仕上げられている。30数年前のフィルム作品だが、絵馬の色彩など色褪せていない。

9. 慈尊院から町石道へ

BD

中川良三

11分20秒

(作者コメント)

久しぶりに秋の慈尊院へ、そして奥には丹生官省付神社。慈尊院から119段の石段をのぼった高台にある丹生官省付神社とは？弘法大師は狩場明神の尊い導きにより仏教・真言密教の布教の基となった狩場明神との運命的な出会いが高野山開山の原点で、その思いを政所として慈尊院を開いたとあります。弘法大師が慈尊院創建の時、守り神として地元ゆかりのある丹生都比売・高野御子の二神を祀った神社だそうです。その先には高野山へ続く町石道が…。



(書記コメント)

慈尊院から町石道へと弘法大師ゆかりの史跡などをよく調べ、丁寧に描かれている。それぞれの歴史的建物や史跡などナレーションで詳しく説明も加えられている。作者コメントで「久しぶりに秋の慈尊院へ」と言われ、トップシーンは画面いっぱいの紅葉で期待させられるが、慈尊院の門前から始まる展開では、紅葉のシーンは挿入映像だけで、もっと秋の情景描写があれば、印象が深まるのではないのでしょうか。

10. 紀州街道(岸和田～和歌山)

BD

山本正夢

12分

(作者コメント)

紀州街道の岸和田～和歌山間は半分が熊野街道と重複します。

(書記コメント)

岸和田城から出発し、紀州街道と熊野街道が重複する道をたどり、やがて二つの道は分岐し紀州街道は和歌山城にたどり着く。この街道沿いの風景や史跡、社寺、地蔵、宿場本陣などを丹念に撮られ、見応えのある作品となっている。気になるのは史跡や社寺の前に立てられた説明書などが度々出てくるが、いずれも数秒で、ほとんど読む間がないので(読んでもらうことを意図されていないかも知れない?)、読ませたい箇所をアップで見せるなど何か工夫が欲しいように思います。

